



校舎が全面的に明るく改修され、喜ぶ児童たち



天然木がふんだんに
使用されている図工室

木のぬくもりがある 明るい校舎が誕生

耐震補強・大規模改修工事

改修中だった中根小学校の耐震補強大規模改修工事がほぼ完了し、使用可能な箇所から順次使用が始まりました。

8月30日の学校集会には工事関係者が招待され、児童代表から「夏の暑い中、大変だったと思います。このようにきれいな教室で毎日勉強できると思うと楽しみです。

ずっと大切に使用したいと思えます。ありがとうございます」と感謝の気持ちが伝えられました。

早速、校舎内の水飲み場やトイレを使った児童たちは、「校舎内部が木でできているのでワクワクした」「すごくきれいになって夢の中にいるみたい」などと大満足の様子。また、トイレ改修に当たり、市は児童に作文を書いてもらい、アイデアを設計に取り入れられました。これまででは暗くて怖いイメージのあったトイレは、安心して使えるよう明るいLED照明を採用。壁や床はクリーム色などの温かみのある色になり、これまで以上に使いやすくなりました。



清潔感漂うトイレ内部

100歳のお祝い



池辺市長から褒状と記念品を手渡される細川たかゑさん(写真右)

敬老の日を前に、池辺勝幸市長が9月6日、市内の100歳を迎えた高齢者5人を訪問しました。池辺市長が「おめでとうございませ」とお祝いの褒状と記念品を手渡すと、どの方もうれしそうに受け取りました。

今年度、市内で100歳を迎える方は11人。その中の一人、奥原町の細川たかゑさん宅には新聞記者も取材に訪れるなどして、家族も一緒に長寿を祝いました。細川さんは大正2年(1913年)生まれ。長寿の秘訣を尋ねられると、「身の回りのことは自分でやるようにしています。学ぶことが好きで読書を欠かさずに行っています」と元気に語りました。

この夏一番の思い出

8月25日、女化青年研修所で第3回「女化夏祭り」が開催されました。夏休み中のイベントということもあり、多くの家族連れが会場を訪れ、昔懐かしい雰囲気の中で、芸術・文化体験を満喫しました。

研修所内では、新「女化物語」と題し、狐の嫁入りを再現した人形展や、昔の学校の写真を展示した「懐かしの学び舎」など、魅力的な展示が、来場者の目を楽しませました。

野外では、小さな子どもたちも参加できるワークショップや踊り、歌のステージなどが開かれ、女化のファミリークラブによる狐をイメージした盆踊り風の鳴子踊り「女化ゆう」も初披露されるな



来場者でにぎわった「女化夏祭り」

女化夏祭り

ど、五感全体を使ってアートを体験。その中の一つ、「Tシャツに絵をかこう」では、白いTシャツに赤・青・黄などの染料で色付けをし、オリジナルTシャツを作成。参加した子どもたちは自由な発想で、個性的な作品を完成させました。



新「女化物語」の狐の人形たち



オリジナルのTシャツが完成

全国8団体だけの快挙



表彰された「牛久ウオーキングクラブ」

社団法人日本ウオーキング協会の平成24年度総会で、牛久ウオーキングクラブが団体功績表彰を受けました。同クラブは牛久健康ウオーキングなど各大会の主催者として活発な活動が評価されました。全国に数えきれないほどあるウオーキング団体の中で、この賞を受賞したのは8団体のみという名誉ある表彰で、これまで積み重ねてきた活動が評価されました。

今後とも地域住民の健康増進とウオーキングの普及に貢献するとともに、市とも協力関係を築きながらウオーキングの環境を調整するなど、活発な活動が期待されています。

牛久市教育講演会

8月8日、市中央生涯学習センター文化ホールで教育講演会が開催されました。市が目指している学びの共同体としての学校づくりについて、市内教職員と市民が学ぶ機会となりました。

はじめに、東京大学大学院教授の三宅なほみ先生から学習科学に基づく「対話的な学びのメカニズム」や「人と関わりながら学ぶことの意味」についての講演があり、次に参加者が小グループになり、宮沢賢治の3つの作品を読んで、作品の特徴や共通する主題について語り合いました。最後に、これらの活動を通して学んだこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを会場全体で共有しました。



ステージを下り熱心に語る三宅先生

うなぎの稚魚を放流

9月9日、城中町を流れる根古屋川で「牛久沼うなぎ放流・自然観察と歴史探索の集い」が行われました。このイベントは環境、自然、水質浄化への気持を育むことを目的に、市と牛久沼漁業協同組合、NPO法人うしく里山の会、牛久市家庭排水浄化推進協議会が連携して実施しているものです。

参加した市内の小学生とその保護者21人は、バケツの中で泳ぐ約30〜35センチのうなぎに触れ、「ぬるぬるする」と声をあげながら、稚魚を川へと放流しました。根古屋川でうなぎを放流した後、一行は史跡散策と自然観察を楽しみました。



うなぎの稚魚を放流する子どもたち

オレンジ市から来市



9月13日から29日までの間、牛久市の姉妹都市であるオーストラリア・オレンジ市の高校生と引率教諭計37人が来市しました。

この取り組みは、市内の高校との交流プログラムとして実施しているものです。9月18日には、一行が池辺市長を表敬訪問し、全員で記念撮影をしました(右写真)。オレンジ市の高校生たちは、市内高校に通う生徒宅などにホームステイしながら交流を深め、牛久大仏、広島、東京、日光などを訪問し、たくさん思い出とともに帰国しました。

交通事故撲滅の誓い

8月21日、市中央生涯学習センターで、「茨城県交通安全キャラバン隊メッセージ伝達式」が行われました。この交通安全キャラバン隊は、交通安全意識の高揚と交通事故撲滅を呼び掛けるもので、2日間をかけて県内を回り、伝達式では、神戸礼子隊長(茨城県交通安全全母の会連合会会長)が内閣府特命担当大臣のメッセージを代読して伝えました。

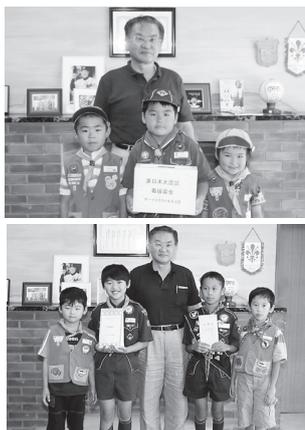
市内では、8月21日時点で交通事故は約283件、死亡事故も1件発生しています。伝達式では、池辺勝幸市長が「安全で安心して暮らせる街づくりを目指して努力することを決意します」と交通事故撲滅の決意を述べました。



交通安全メッセージが池辺市長(写真右)に伝達されました

子どもたちから寄付

ボーイスカウト牛久第1・2・4団が、それぞれ集めた寄付金の合計3万8382円を「ふるさと応援寄附金」として市に寄付しました(上写真は第1・2団、下写真は第4団)。この寄付金は、市の災害被害活動支援のために使われます。



いずみの会5回目の寄付

9月5日、社交ダンス「いずみの会」から「ふるさと応援寄附金」1万円が市に寄付されました。同会は、少しずつでも自分たちでできることをしたいと寄付を続け、今回で5回目の寄付となりました。

